

精神科・神経科（川崎病院）（必修科目）

◎ 精神科・神経科研修カリキュラム責任者：齋藤 寿昭 精神科部長

A. 研修目標

1 一般目標

1) 医療全体に関係する事項

- 個人としての患者の尊重、又は医療における倫理的問題（患者の主体性・自律性、インフォームドコンセントの問題など）の重要性を理解し、それに基づく医療を実践することができる。
- 患者や家族と適切な協力関係を作ることができる。（情報収集、ラポールの確立と患者や家族の心理に対する対応、情報提供と治療に対する動機付け）
- すべての疾患における、生物学的、心理学的、社会的因子の相互関係を理解し、それを実際の医療に応用することができる。
- 医療チーム内において適切な協力関係を作ることができる。
- 社会資源について理解し、それを適切に利用することができる。
- 医師自身の心身の健康（身体・精神・社会的に健康）を保持していること。

2) 主として精神医療に関係する事項

- 精神医療に関わるネガティブ（偏見的な）先入観を改め、肯定的に評価できるようになる。
- 精神症状を評価する基本的な方法を学び、それを現実の医療に応用することができる。
- 主要な精神疾患（統合失調症、気分感情障害、てんかん、その他）に関する基本的な知識を学び、それを実際の医療に応用することができる。
- 精神療法（個人・家族を中心に）の基本的な技法を学び、それを実際の医療に応用することができる。
- 向精神薬に関する基本的な知識を学び、それを実際の医療に応用することができる。
- 精神科紹介の適応と方法を学び、それを実際の医療に応用することができる。

2 行動・経験研修目標

1) 医療全体に関係する事項

- 基本的な面接方法（基本的な礼節を保つ、患者や家族の立場や心理への配慮、面接理由の明確化、傾聴、open question、追体験、疑問をもつ、適切な説明とその方法、適切な治療契約、それを双方が守ることの重要性、患者の非言語的表現にも注意する、あらゆる面接が支持的対応の意味をもっていることを理解するなど）を学び、実行することができる。
- 特殊な面接方法（重大な治療やケアの方法の決定、bad news の伝え方、性に関する問題、児童、高齢者、異なった文化圏の人、マイノリティに属する人、医師が陰性感情を持つ人など）を学び、実行することができる。
- 精神疾患が患者や家族の心理と生活に与える影響を理解し、概要を述べることができる。
- 患者及び家族のストレスコーピングについて理解し、概要を述べることができる。

- 患者の心理や生活とライフサイクルとの関係を理解し、概要を述べることができる。
- 心理・社会的因子が疾患に与える影響を理解し、概要を述べることができる。
- 治療アドヒアランスに影響を与える因子を理解し、概要を述べることができる。
- 支持的対応の基本（基本的な面接方法に加えて、患者のコーピングをまとめ、それを支持する。）を学び実行することができる。
- 患者の環境面と調整の具体的な方法を学び、実行することができる。
- 家族支援の具体的な方法を学び、実行することができる。
- ソーシャルサポート及び社会資源に関する具体的な知識とその利用方法を学び、適切に利用することができる。
- 治療アドヒアランス向上のための技法（行動修正技法）（ストレスマネジメント、禁煙・肥満治療・その他のライフスタイルの修正技法、慢性疼痛患者に対する対応など）を学び、実行することができる。
- 医療チームの各構成員の役割とそれを尊重することを学び、適切に振る舞うことができる。
- 医療チーム内における適切なコミュニケーションの方法（主体的な参加、役割に対する責任感、治療やケアの方針の明確化、分かったことと、分らないことの明確化、できることとできないことの明確化、あいまいな表現や難解な表現を避ける、そして適度の寛容性など）を学び、実行することができる。
- 医師自身のストレス因子と有効なストレスコーピングを学び、実行することができる。
- 医師自身が支援を求めるときの適切な方法を学び、概略を述べるすることができる。

2) 主として精神医療に関係する事項

- 主要な体験症状と表現症状を学び、実際にそれらを把握することができる
- 主要な精神症候群（意識障害、錯乱状態、幻覚妄想状態、精神分裂病残遺状態、躁状態、抑うつ状態、不安状態、心気状態など）を学び、実際にそれらを把握することができる。
- 精神医学的診断の基本的な方法・手順を理解し、実行することができる。
- 脳波検査の目的、手順、判読方法などを理解し、典型的な脳波を実際に判読することができる。
- MR、CT、SPECTなど画像診断の目的、読影、診断を学ぶことができる。
- 心理検査の種類、目的、手順、限界などを理解し、主要な検査を実行することができる。
- 主要な精神疾患について病態・病因、症状、検査所見、診断、治療などの基本を理解し、概略を述べるることができる。
- 特に、プライマリケアでしばしばみられる精神疾患について、適切な評価、診断、治療を行うことができる。
- 精神科的緊急事態（自殺、急性精神病状態など）について適切な評価、診断、治療を行うことができる。
- リエゾン精神医学の重要性とその基本を学び、概略を述べることができる。
- 精神科入院治療の適応、その際の治療契約の重要性を理解し、概略を述べることができる。
- 支持的精神療法の基本を理解し、実行することができる。

- 危機介入の基本を理解し、実行することができる。
- 認知行動療法の基本を理解し、概略を述べることができる。
- 抗精神病薬の適応と禁忌、使用方法、効果・副作用・コンプライアンスをモニターする方法、薬物相互作用などを理解し、主要な薬剤を実際に使用することができる。
- 社会療法の基本を理解し、その概略を述べることができる。
- 地域精神保健福祉システムの重要性とこれとの連携を理解し、その概略を述べることができる。
- 精神保健福祉法の概略を理解し、その概略を述べることができる。
- 以上述べたことは、当院ではすべて可能である。精神医学・医療の広範囲にわたる実践ができる。

B. 研修計画

研修期間 1か月

1) スケジュールなど

初日 オリエンテーション—各個人に併せて決定する。

2日目～ 午前：外来研修

予診、経過観察（陪診も行う）、指導医による診断の確立と今後の治療

午後：担当医として病棟・リエゾンの研修—他科医師との連携による。

- 毎週1回の新入院カンファレンス・ケースカンファレンス・病棟ミーティングと研修医の意見
- 2週に1回の抄読会—精神医学の基礎を学ぶ。特に、ドイツ学派の記述的学問を学ぶ。
- 毎週数回の小講義
- 毎月末に、中間サマリーの提出と指導医によるチェック
- 症例の退院ごとにレポートを提出—指導医のチェック
- 救急当番日は、指定医と共に居残り、措置鑑定に同席する。—精神科救急の在り方を学ぶ。

2) 具体的な研修内容

入院

- 統合失調症・うつ病・痴呆・不眠・摂食障害・アルコール症・不安障害・児童精神障害例・措置例・身体合併症例など多彩な入院症例を担当医として受け持ち指導医の教育を仰ぐ。
- 毎日の診察の中で精神症状の詳細な把握、精神科的面接技法の習得、心理社会的介入や薬物療法、不穏患者の管理の方法などを学ぶことを目標とする。
- リエゾン（他科との連携医療）研修では、身体疾患に伴う精神症状（意識障害、せん妄、不穏・興奮・うつ状態など）の診断と治療法を学ぶ。

外来

- 初診患者の予診をとり（予診の聴取は教示する。）、その後の指導医の診察に同席して診察の技法や精神障害のスクリーニング技術、治療導入方法を身に付ける。
- 経過観察症例の診察に同席し、精神症状の変化の把握と維持療法を学ぶ。研修の最終月には、自ら診察を行い、投薬まで出来ることを目標にする。

その他

- ・川崎病院は所謂、神奈川県における措置入院の基幹病院と指定されているため24条通報の患者の入院退院を応偏する病院である。

C. 指導体制

- ・齋藤寿昭部長や医員及び後期研修医等による精神科全医師による入院および外来での指導をおこなう。
- ・心理士による臨床心理テストの概略や心理面接を学ぶ。
- ・精神保健福祉士により病院と他病院、診療所との連携、精神医療各機関との連携を学ぶ。

D. 研修評価

井田病院の定めた評価方法による。指導医、部長が共同で評価する。

E. その他

川崎市立病院・精神神経科の特徴

- 外来患者数が多く、入院期間が短いため、多彩な種類の症例を体験することが可能である。
- 総合病院精神科の利点として身体疾患に随伴する種々の精神症状を体験することができる。
- 児童精神医療、虐待を含めた育児困難など社会精神医学、精神保健福祉法に基づく基幹救急医療としての措置や医療保護入院患者、さらに初回エピソード精神病の治療が可能である。
- 患者の年齢層は、児童から老年期までと幅広く、疾患も生物学的なものから心理・社会的疾患まで豊富である。また学校への訪問活動も行なっている。
- 学会活動（精神神経学会、児童青年期精神医学会、てんかん学会、日本社会精神医学会、精神科救急医学会など）への参加も希望すれば可能である。